

文部科学省「地域連携による障害者の生涯学習機会の拡大促進」

学び合う そして 創り合う



2021年度 ゆめ・やりたいこと実現センター
社会福祉法人一麦会（麦の郷）

目 次

あいさつ	2
1. なまか	6
2. シャイン	8
3. 西牟婁圏域自立支援協議会 就労支援部会	10
4. キセキの杜	12
5. たなかの杜フォレスクール	14
6. むぎピース	16
7. 那賀青年学級	18
8. ひまり	20
9. スペシャルオリンピックス日本・和歌山	22
10. T-LABO T-JOB	24
11. 青年学級すばらしき仲間たち	26
12. ワーカーズクラブ	28
13. フレンズ	30
14. ゆめ・やりたいこと実現センター	32
まとめ 和歌山大学 山崎由可里さん	36



社会福祉法人一麦会
理事長 山本 耕平

平素より社会福祉法人一麦会（麦の郷）の運営・実践にご理解、ご協力頂き感謝申し上げます。

麦の郷ゆめ・やりたいこと実現センターは、学校卒業後の障害のある仲間たちにとってわくわくできる時間を保障することを目指しています。

みなさんは、勉強を強制されることの経験をもっていないでしょうか。しかも、その経験に「嫌悪感」をもったことがありますか？私は、その経験をしてきました。数学や理科は特にそうでした。高校を卒業するまでの勉強は、私にとってまさに「嫌悪感」そのものでした。しかし、その私が、わくわく感を感じた学びがあります。それは、高校時代に出会った社会問題研究会での部落問題や社会問題の仲間たちとの学びです。さらに、それをより強いものにしたのが、大学に入学し障害者問題研究会というサークルに入部し、仲間との学びあいとの出会いでした。

それまでの「嫌悪感」が、「銀行型教育」であり、学びのわくわく感が「問題解決型教育」のなかで生じていることに気づいたのは随分時間がたってからです。この「銀行型教育」や「問題解決型教育」という言葉は、パウロ・フレイレという教育哲学者の言葉です。私が、社会問題研究会や障害者問題研究会で出会った感覚は、まさに、私たちの前にある障害者問題をどう解決するか、その一員となる力をどう獲得するかという学びあいは、それまでの知識を詰め込む「銀行型教育」では獲得できなかったウキウキ感だったのです。

パウロ・フレイレの「被抑圧者の教育学」の中心テーマは「人間化」にあります。麦の郷ゆめ・やりたいこと実現センターで追求するのは、まさに、この人間化（抑圧する側の人間も、抑圧される側の人間も、より人間らしくなること）の追求です。私たちは、往々にして、縦と横の評価のなかで、人間らしさを奪われつつあります。縦の評価は、学校時代に受ける成績によって表されるものが、その一つでしょう。職場に入ってから、は、「できない人」という評価として表されます。また、横の評価は、友達同士の「あいつはできる、できない」というなかま同士の評価として現れます。そのなかで、「できない」と評価された人は、まるで人格そのものが評価されたかのように生きる力そのものを喪ってしまいます。

人の素晴らしさや可能性は、どれだけの知識を持っているのかではなく、人生とどれだけ意欲的に取り組むことができるのかどうか問われなければなりません。麦の郷ゆめ・やりたいこと実現センターは、人生と意欲的に向き合うことを可能とし、力の獲得をめざしています。これは、エンパワメントの力といえるでしょう。人が潜在的な力を発揮し、社会に参加する力を育てるとともに、社会を築き上げる取り組みのなかでエンパワメントが可能になります。誰もが素晴らしい力を持って生まれ、生涯にわたってその力を発揮し続けます。エンパワメントは、人が持っている潜在的な能力を引き出す実践のなかでこそ可能になります。

その実践は、自分らしい生活を楽しみ「今、自分が必要とされている」という感覚を育てます。これは、自己肯定感と言われるものです。仲間たちが、夕刻の集いに生き生きと参加することができるのは、夕刻の集いが、「今、自分が必要とされている」という感覚を育む場となっていると確信しています。

今、ゆめ・やりたいこと実現センターに集う仲間たちの心がウキウキする実践が永続的に保障されるのみならず、学校卒業後の育ちを保障する実践が全国的に展開され、多くの仲間たちの人生がより素晴らしい人生となることが制度となることを希望します。パウロ・フレイレが「自分が歴史を動かしていると考えたり、人間を支配できると考えたり、あるいは逆の意味で自分こそが抑圧されている人たちの解放者になれる、と考えたりしないこと。歴史のうちにあることを感じ、コミットメントを持ち、人々と共に闘う」ことが人が解放され人間らしくなる為に必要であると述べています。人が解放される為には、それが実感される場と関係が各地に育つことが必要ではないでしょうか。

ゆめ・やりたいこと実現センターの運営・実践にご協力頂きましたみなさまへの心からの感謝とともに、みなさまとともに彼や彼女たち、さらに自分自身の解放に取り組むことができるたくさんの方を創り上げる運動をみなさまとともに行うことができる喜びをお伝えし、感謝の挨拶に代えさせていただきます。

文部科学省事業
共に学び、生きる共生社会コンファレンス
近畿 A ブロック第1回

学び合う そして 創り合う

— 障害者の生涯学習に向けて —

和歌山県内で障害者の生涯学習や余暇活動に取り組んでいる事業所や団体のみなさんと実践交流会を開催します。地域での生涯学習のつながりを広げていきましょう。

2021年 10月12日 火 13:00
16:00

スケジュール (予定)

13:00	開会	文部科学省障害者学習支援推進室から コンファレンスの趣旨等について説明
13:15	生涯学習交流	各団体等から5分程度で取組発表
14:30	休憩	
14:40	交流会	グループに分かれ情報共有
15:10	報告	各グループからの発表
15:30	和歌山大学教授 山崎由可里先生からの感想・まとめ	
16:00	終了	

発表団体

つわぶき会 T-JOB/ 障害者の豊かな青年期を考える会 なまか / 青年学級すばらしき仲間たち / 那賀青年学級 / きのかわ福祉会 自立訓練事業 シャイン / スペシャルオリンピックス日本・和歌山 / キセキの杜 / ふたば福祉会 本人活動支援フレンズ / ころん / 西牟婁圏域自立支援協議会 就労支援部会 / やおき福祉会 ワーカーズクラブ / ふたば福祉会 たなかの杜 フォレスクール / 一麦会 むぎピース / 一麦会 ゆめ・やりたいこと実現センター

主 催：社会福祉法人一麦会（麦の郷）ゆめ・やりたいこと実現センター／文部科学省
住 所：和歌山県紀の川市粉河 853-3 Tel/Fax：0736-60-8233
メール：yumeyaritaikoto.center@gmail.com URL：http://yume-yaritaikoto.jpn.org

協力：NPO 法人エルシティオ

今年度ゆめ・やりたいこと実現センターでは、「共に学び、生きる共生社会コンファレンス」を2021年10月12日と2022年1月30日に開催いたしました。

第1回コンファレンスでは、和歌山県内で障害のある人の生涯学習や余暇活動に取り組んでいる事業所や団体の中から14カ所の皆さんに、日ごろの活動の様子や思いを報告していただきました。

和歌山県内には、まだまだ生涯学習や余暇活動に取り組んでおられる皆さんがおられますが、今回の報告書では、10月12日に報告いただきました皆さんからの資料を掲載させていただきます。それぞれの活動の様子を通して、これから障害のある人の生涯学習に取り組まれる皆さんにも参考にしていただけたら幸いです。

10/12（火）コンファレンス参加者

参加者属性	人数（名）
行政関係者（教育委員会）	13
行政関係者（首長部局）	8
学校教育関係者（大学等関係者を除く）	6
大学等関係者	3
公民館等社会教育施設関係者	10
社会福祉法人関係者	19
NPO法人関係者	7
企業関係者（商工会等含む）	2
保護者団体関係者（親の会・手をつなぐ育成会等含む）	1
その他一般参加者	7
運営事務局関係者	4
合計	80



NPO 法人

障害者の豊かな青年期を考える会 なまか

事業所紹介

2001年に支援学校に在籍する我が子のために高等部卒業後に「和歌山にも専攻科が欲しい」という思いで「和歌山・専攻科を考える会」を保護者で立ち上げて活動を開始。その後、県外の専攻科を修了した青年たちの豊かな青年期全体を視野に入れた活動の必要性を感じて、2007年に「NPO 法人障害者の豊かな青年期を考える会 “なまか”」を設立。

2021年現在、21歳から36歳の知的障害を持つ青年10名とその母親の20名で、和歌山を中心に活動しています。

<活動内容>

- ・全国専攻科(特別ニーズ教育)研究会の集会に参加
- ・“なまか” ツアー・青年講座の企画 クッキング、健康と食事について、防災
- ・青年の自主企画 初詣、飲み会、工場見学 ・母親がひらく月例会

活動風景



事業所データ

NPO 法人
障害者の豊かな青年期を考える会
なまか
Email chanticmimi@yahoo.co.jp

利用者の声

- ・“なまか” ツアーに行きたい
- ・青年の月1回のZoom飲み会が楽しみ
- ・甲子園の野球観戦に行きたい
- ・“なまか”の存在は大きいです！
- ・青年と母親の生涯教育の場です。



全国専攻科(特別ニース教育)研究会 第 17 回集会

https://www.facebook.com/zensenken/?ref=page_internal

「2年ぶりに開催する今回は、web 上で全国の青年期の学びの場を画面上で結び、画面越しに学生たちが交流する企画を行います。青年たちが主人公の全専研らしく、コロナ禍でのオンラインブームを生かした取り組みに挑戦します。」

11月19日、“なまか”は山崎邸をお借りしてリアルタイムで参加しました。仕事の都合で参加できなかったメンバーは顔写真で応援。11月27日に改めてオンデマンド配信を17名で見ました。

《青年の感想から》

全国の仲間とオンラインで話出来て面白かった。久しぶりにやしま学園の教室が見れて感動。全国の仲間の主張がしっかりしていてすごい。プロ野球入れ込み情報をしっかり言えたか不安になってときどき。コロナの影響で全国のなまかと直接話が出来なかった事が残念。

次回は直接会場で全国の仲間と話がしたいです。

なまか会では阪神(応援ファン)と巨人(応援ファン)のグッズを着て応援歌も歌ってくれました！

やしま学園専攻科皆さんでは牛井作ったり 看板(名前)フレーズでは『ハノ野家』凄かったです！

全専研クイズ(オンライン)も楽しかったです!!

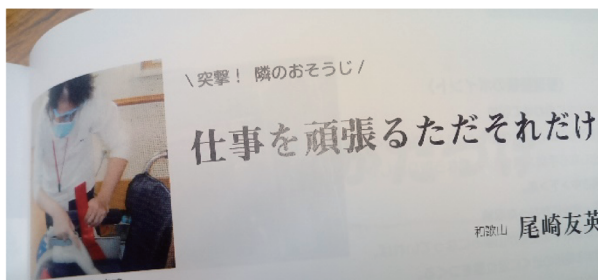
《親の感想から》

コロナ禍で集会が出来ない中 このように Zoom で青年たちのイキイキとした姿を見ることが出来て、とても嬉しく思いました。開催して貰えたことに感謝です。

なまかの青年たちは、普段其々が其々の場所で活躍していてなかなか集まらない中 ほぼぶっつけ本番ながら今回楽しく参加出来、終わってからのフリータイムで見晴台学園大学の岡田君と交流している場面も 見ることも出来て見守っている私もうれしい気持ちになりました。

とは言え、平日の午後ということで仕事等で当日直接参加出来なかった仲間とも改めて鑑賞会を開いてワイワイと盛り上がったときには、やっぱり直接会うことの嬉しさを感じました。

集会でみんなに会える日が来ることを楽しみにしています。



みんなのねがい 2022年1月号

特集 そうじ・かたづけ に 尾崎君が書きました。

「職業は介護職です。13年目です。…」

体力と思考力を鍛え、利用者さんへの気持ちを大切に頑張っていきたいです。」仕事の内容がよくわかり、彼の真摯な気持ちの伝わる文章でした。親のLINEに感想の言葉が並びました。それを受けてお母さんから「なんか凄く温かい言葉をいっぱい貰えて改めてなまかのみんなに感謝です。なまかの一員でよかった…」

きのかわ福祉会

自立訓練事業シャイン

事業所紹介

2010年にきのかわ共同作業所の多機能事業のひとつとしてスタート。2013年には単独事業となって今年で12年目を迎えた。現在、1年次6名、2年次7名、3年次2名の計15名が通所している。修了生はこれまで56名で、それぞれ全員が進路先で頑張っている。「豊かな生活を主体的に営む力を身につけて社会に出る」ことを目標に、テーマ研究を中心として様々なプログラムを取り入れ取り組んでいる。実践の中で、仲間や支援員だけでなく、外部の方々に評価をしてもらうことが青年らしい肯定感や達成感を育てることに有効であると考えている。いろんな人と出会い、自分の思いを広げ実現するための方法を知り、人を頼り頼られる。様々なプログラムを通して他者の気持ちも知り、自分の気持ちを伝えコントロールできるようになってほしいと願い実践している。

活動風景



事業所データ

〒649-6226

和歌山県岩出市宮71-1

パストラルビル3階B号

TEL・FAX 0736-67-7864

E-mail

kinokawashine@basil.ocn.ne.jp

利用者の声

- 自分がしたいことに挑戦し、取り組むことができるようになった。
- よくしゃべるようになった。
- 自分の思いや悩みを伝えることができるようになった。
- 自分の意見が言えるようになった。
- いろんなところに自分で行けるようになった。

令和3年度の活動

コロナ禍で施設外での活動が制限されている中で、例年実施される県下自立訓練合同合宿や全国専攻科研究集会が2年にわたり中止となり、交流ができない状態です。他事業の仲間とのいろいろな体験、交流を通して「自分と他者の関係」を感じることができる機会が得られない状態です。このような環境の中で何かできないかとみんなに投げかけたところ、みんなで相談して昨年度に続いて夏祭りを実施することになりました。昼食作りからはじまって、射的、ヨーヨー釣り、輪投げ等の催しを楽しみました。「みんな当日まですごく頑張って準備できていたのがすごいと思いました。自分もすごく頑張れたと思いました。楽しかった。またやりたい。」という、自分や他者を客観的に見た感想がありました。

また、福祉バスを利用したのレクリエーションで、雷雨の中、姫路セントラルパークに行きました。雷雨の中でしたがそれが逆に思い出に残ったようでした。さらに、テーマ研究では鳥羽水族館と伊勢神宮、それと田辺に行きました。前者は、当日早朝出発の予定だったので、どうするかみんなで考えました。そうすると前泊するという提案が出て、事業所の前にある「ホテルいとう」に宿泊することになりました。初めての宿泊です。夕食後は、コンビニに夜食を買いに行ったり、ほかの部屋に遊びに行ったり仲間と過ごして楽しかった様子です。後者は、支援人も初めての経験となった「路線バスを乗り継ぐ旅」を1泊2日で紀伊半島を一周しました。1日目は五条バスセンターから本宮大社まで4時間近くバスに乗りました。途中、十津川で休憩時、谷瀬のつり橋わたりを初体験しました。一歩踏み出すのに躊躇している人やすいすい渡ってしまう人など様々でした。その日は川湯温泉に宿泊し、バイキングの食事を満喫したり、混浴（浴衣着用）の露天風呂に興味津々でした。2日目は田辺までバスの旅、途中田辺工業高校の約40年前の映画「Back to the future」のデロリアンを見学させてもらいみんな感激していました。

交流・活動を通して、いろいろな体験・経験をすることは「自分と他者の関係」を知り、シャインのキーワード、自己開放・自己肯定・他者受容・自己変革につながっていくと思います。



西牟婁圏域自立支援協議会 就労支援部会

事業所紹介

西牟婁圏域自立支援協議会 就労支援部会では、圏域内における障害者就労支援に関して関係機関との連携や情報共有を図り、圏域での訓練体制、就労支援体制の確立、就労を希望する障害者の支援等に向けて活動しています。

また、地域や企業のイベントの情報提供も行い、独立プロリーグ（野球）との交流や企業からの呼びかけによる全国規模のイベントでの物品・食品販売や各事業所での作業風景などの紹介などに取り組んでいます。運動することや販売の楽しみを感じ、普段体験していないことにも積極的に取り組める場となるよう取り組んでいます。

活動風景



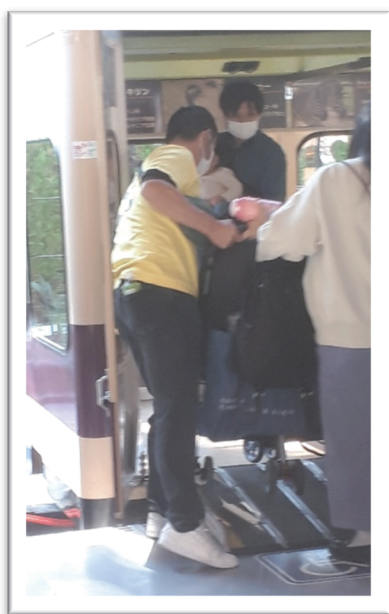
事業所データ

西牟婁圏域自立支援協議会
事務局 基幹相談支援センターにしむろ
■〒646-0028
和歌山県田辺市高雄一丁目 23-1
田辺市民総合センター 2F
■Tel : 0739-33-7492
Fax : 0739-33-7422
■E-mail : nishimuro@vm.aikis.or.jp
■時間（曜日）8:30～17:15（月～金）

利用者の声

- ・意義のある特別な時間でした。
- ・良い経験となった。
- ・また行きたい。楽しかった。
- ・また〇〇さんに会いたい。
- ・たくさんのお客さんに喜んでもらえてよかった。
- ・販売を通して沢山のひとと話ができた。

西牟婁圏域自立支援協議会 就労支援部会



11月3日（水）に企業イベントへ参加しました。

参加された利用者さんからは、「楽しかった」「来て良かった」「お土産をもらえて嬉しかった」等、聞いております。

職員だけでもと参加して下さった事業所もあり、全国の方に障害者、支援者の働く姿、作業所で製造されている商品をお届けできたかと思います。

イベントへの参加は新型コロナの事もあり、自立支援協議会として参加するのは、中々難しい所もあります。

今後の状況にもよりますが、イベントの紹介等を含めて就労支援部会としても参加していければと思います。



my ステーション

～キセキの杜～

ジョブステーション ジョブステーションPlus

○事業所紹介

2015年4月 就労移行支援事業所 ジョブステーション開所（定員：12名）、2017年4月自立訓練 my ステーション開所（定員：8名）、2018年10月 就労定着支援 ジョブステーションPlus を開所しました。開所後から、毎年6人以上の一般就職者が出ており、現在33名の方が一般企業に就職されています。定着支援者も10人以上になり、勤務時間延長や給料アップ、人間関係の悩みの解決に会社と共に考えています。皆さん今では、企業で必要不可欠な存在になっています。利用される方々の障害の種類や、年齢也多岐にわたっていますが、それぞれのペースで日々通所していただきながら、生活リズムの安定をさせ、コミュニケーション能力の向上や、体力アップを目指しています。この他にも、自身の障害の理解や通院の同行なども行います。

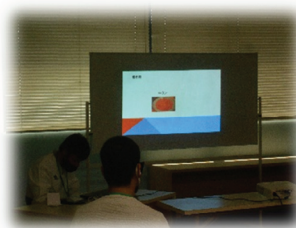
創作活動（うちわ作り）



調理体験



プレゼンテーション



スタッフ講話



グループワーク



作業体験



○利用者さんの声

- ・挨拶ができるようになった
- ・体力が身についた
- ・生活リズムが安定
- ・不安がなくなった
- ・話すことが怖くなくなった
- ・お金のことを考えるようになった
- ・就職へのイメージができてきた

○事業所データ

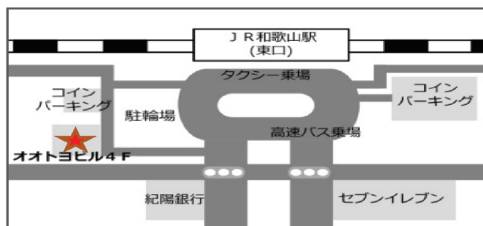
■〒640-8323

和歌山市太田1丁目14-11 オオトヨビル4F

Tel:073-474-7711 Fax: 073-474-7722

Mail:kiseki.job@k-e-g.co.jp URL:http://jobstation.life/

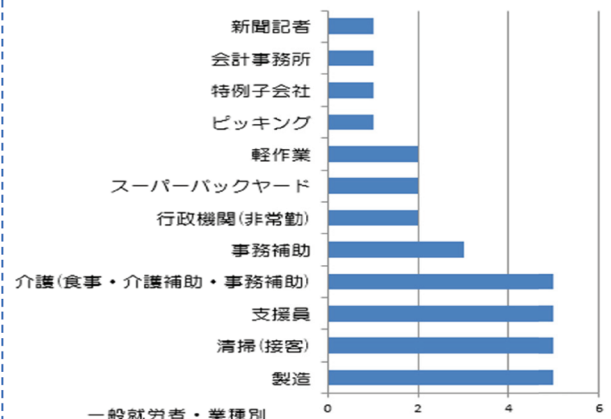
開所時間：8：45～17：30 定休日：第二・四土曜日、日曜日



※トレーニングの様子を、ブログにて公開しています。

就職者 46 名

（一般就労：33名、A型事業所：13名）



キセキの杜 トレーニングの様子



外部機関
の講座



グループ
ワーク



作業体験



個別プロ
グラム



体力作り



生活力
体験



運動



ふたば福祉会 たなかの杜 フォレスクール

事業所紹介

2008年4月ふたば福祉会が運営する多機能型施設たなかの杜の一事業として「たなかの杜 フォレスクール」が全国初の学びの作業所としてスタート。支援学校卒業生や青年期の障害者が、将来自立した豊かな生活を営むための訓練及び支援をゆったりのびのびと自由に楽しく受けられる通所施設です。フォレスクールでは、日常・社会生活能力を身につけると共に、社会・他人との関りや大人になるための文化・ゆとりを取得し、少しでも人間として成長してから社会にはばたけるようにします。また、仲間と共に集団で、楽しく時には失敗しながら沢山の体験や経験を積み、自信の持てる自分作りをサポートします。

活動風景



事業所データ

〒646-0056

田辺市芳養町 3216-19

TEL→0739-26-1310

FAX→0739-26-0366

Email→futaba-tanakanomori@athena.ocn.jp

利用者の声

- ・ 原付免許を取得できてうれしかった。
- ・ ジャズダンスが楽しかった。
- ・ 駅まで1人でバスにのっていけるわ
- ・ 集団で自分の思いを伝えられるようになった。
- ・ フラワーアレンジが楽しかった。



社会福祉法人一麦会 むぎピース

事業所紹介

むぎピースは、就労継続支援B型といって仕事をするところです。いわゆる作業所です。精神、知的、発達、身体などに障害をもつ方々が通っています。ほとんどの方が40歳代後半～60歳代で、長い間家族とだけの関係の中で過ごしてきた方々です。それぞれの力(できること:役割)を出し合って、自信を高めて、お互いの関わりのなかで生活全体が充実していけるように活動づくりをしています。活動内容は調理、配達、洋菓子づくり、販売、老人ホームや施設の外回りの掃除、内職作業、手作り雑貨/絵画作品づくりなどです。作業も細かく分けてみんなが工程に関わって完成！を目指しています。届ける相手への思いを込めて作業しています。雑貨/作品づくりでは出品する自分を発信!するつもりで作業しています。また、利用者のアート作品展示会を開催したり、夕方には晩御飯と一緒に食べる取り組みや、休日に映画観賞・ワークショップでの趣味発掘講座で、障害のある人の社会参画や余暇支援に就労継続支援の立場で取り組んでいます。「頑張りすぎることなく」緩やかに、就労と向き合う気概を養いつつ、気長に続けられる生活と地域に寄り添った作業所を目指しています。

活動風景



事業所データ

むぎピース(就労継続支援B型)
〒640-8123
和歌山県和歌山市三沢町3丁目40番地
Tel 073-427-8149
Fax 073-427-8158
e-mail mugi-w@wasaren.org
(月)～(金) 9:30～16:00 あいてます。

*移転先(2022年2月頃近くに移転します)
和歌山県和歌山市三沢町3丁目4

利用者の声

障害のある人たちの仕事するところ:楽しいよ
ともだち出来るところ…
みんなに会えるところ…
みんなと話できるし仕事もできる…
しんどい時は休んでもいい…
不安な時は話を聞いてくれる…
そんなところです。

最近のむぎピースは…

紀の国わかやま文化祭 2021
2021 年 10 月 30 日～11 月 21 日
紀らり！ まちなか美術館



日々、個人で書きためていた作品や何人かで合同作品を描いて、応募しました。和歌山市のいろんな所に飾られて、自分の作品がたくさんの人たちに見てもらえる！っていう心地よさを実感しました。次なる作品づくりの励みになりました。街中がむぎピースのメンバーの描いた色でキレイに染まっていました。芸術の秋を満喫しました。

コロナウイルスの感染が落ち着いていた 12 月にむぎピースの皆で和歌浦の「萬波」に、日帰りレクに出かけました。毎年恒例だった日帰り旅行に行けない 2 年間でしたが、和歌山リフレッシュプランを利用して大いに食べて…買い物しました。(黙食で)入浴も出来るプランでしたが、ゆっくり食事を楽しんで…お土産を自分用や家族・関係者に選んで…楽しんで時間が過ぎました。

2021 年 12 月 リゾートホテルに出かけて…
豪華ランチレクしました！



いよいよ完成！2022 年 2 月末移転します
おもしろ楽し！むぎピースがパワーアップ!!

改装工事も進み、移転できる日が目前になりました。

新しいむぎピースの始まりの時です。

変化に不安なメンバー…広く新しくなることにワクワクに変わっていくように、一緒に何度も話して下見もして、イメージを膨らませていこうとしています。

これまでは環境が許さずできなかったことに、ドンドン挑戦していきます。

むぎピースのメンバーはもちろん、障害の有無にかかわらず、地域の方々(近所の高齢者・子供たち)の集ってもらえる仕掛けづくりをします。楽しみの始まりです。

那賀青年学級

事業所紹介

1991年4月にきのかわ養護学校の卒業生のアフターケアの1つとしてスタート。卒業生が増える中、職場巡回や年1回の同窓会では対応しきれなくなり、高等部の先生方に必要性を訴え、有志5人で月2回 土曜日の夜、学級を開いた。活動は話し合いで自分たちのやりたい活動を出し合って計画する日と活動日である。実現した活動は、一泊旅行（東京ディズニーランド・神戸ポートピア）カラオケ、忘年会、映画、ビアガーデン、新入歓迎会など…。スタッフの話し合いで「2週に1度友人と会え、語り合いふざけ合って、ありのままが出せる（着飾らなくていい）場所」と位置付けた。これからも、青年たちの心のオアシス的存在として存続していきたいと願っている。今は、きのかわ支援学校の卒業生以外の人も参加している。

活動風景



事業所データ

那賀青年学級

E-mail

ekwagon3556@outlook.com

利用者の声

- ・29年間、ずっと休まず参加している。
- ・青年学級に来たらほっとする。
- ・いつも励ましてくれる。
- ・毎年のカラオケがとても楽しみだ。
- ・悩みが相談できる。
- ・仕事はストレスがたまるが、青年学級はリラックスできる。

青年学級を開いたよ。

叱られた。

2年ぶりの青年学級開催のメールにご立腹の仲間。「なんでお昼なんよ。いつも夜だったのに。それに日曜日は仕事で行かれへん!」
12月にやりたいなあと急に計画する。スタッフの調整がやっとこさでこの失策。
「ゴメン、ゴメン エルシテクダサイ」

歓迎会、ある? ない?

コロナの感染予防で、S君は電車通勤をやめ、作業所の車が通るところまで、毎日、母の車で送迎してもらおう。帰路、母の車に乗りこむと、「歓迎会ある? ない?」と毎日、毎日、母に問う。「まだないよ」と母は毎日、毎日返事する。
彼が作業所のバスの乗降する場所は、青年学級がよく新入歓迎会と利用するお店の前なので、青年学級の休みが続いていた時に、お母さんから聞きました。



集まった仲間達とスタッフ



楽しかった行事

ベスト3

- 1位、カラオケ
- 2位 外出(バiking、ヤキ肉)
- 3位 ヒーガーデン

これから何をしようか?

- ★ カラオケ
- ★ バス旅行
- ★ おしゃべり。
- ★ みんなとおいしいものが食べたい

スタッフのこと

- ・スタッフせんかもっとかえしてほしい
- ・若い人が来てほしい
- ・若い男の人が来てほしい
- ・スタッフはとこもやさしい

へえ! ばかりに開かれた青年学級で仲間の思いやこれからのことを聞きました

認定特定非営利活動法人ころん

ひまり

事業所紹介

2017年1月に法人4カ所目の事業所として、重症心身障害児を対象とする放課後等デイサービスを開設。2021年6月に手作り雑貨の店ヒコゴロンが開店を機に、医療的ケアが必要な子どもたちと一緒に、働くこと、自分のことを考える活動を開始する。ICTを活用し、デザインやマーケティングを学びながら、やりたいことを探す、とりあえずやってみる、挑戦するために、様々な活動に取り組んでいる。LINEやzoomを使った打ち合わせや、制限があるなかの体験を積むことも意識して行っている。2021年度は、ホームページをリニューアルし、モデルとしてカメラマンに撮影をしてもらうことも体験した。子どもたちが持つ表現の豊かさを将来の生きる力として身につけられるか、様々な活動の場を模索しながら、取り組んでいる。

活動風景



事業所データ

〒646-0216

和歌山県田辺市下三栖 1499-82

☎0739-81-2388 📠0739-81-2389

E-Mail npocolon@gmail.com

URL <https://www.npocolon.org>

時間 月～金 8:30～17:30



利用者の声

- ・いろいろやってみたい
- ・自分の書いた作品が売れるとうれしい
- ・やってみたいけど不安
- ・働くことはつらい

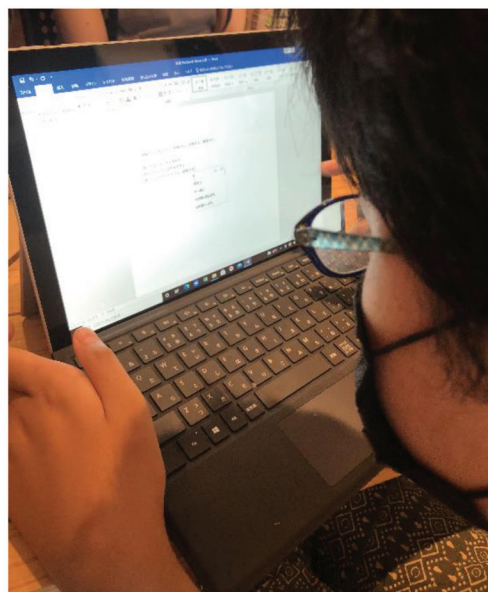
写真の彼の絵が年賀状で発売されました。彼の表現でいう「飛ぶように売れる」とまではいきませんでしたが、デザイナーさんと一緒に作りあげることができ、カッコよく、めだたい作品に仕上がりました。好きなことや物を自分一人だけではなく、誰かに伝えること、他の人も「いいね」とわかってくれること、体験を通じて様々なことを知ることができたようです。

私たちも支援していると、これがいいと思って支援してしまうことがあります。実は違うことも多いように感じます。今回、1人の未来のアーティストと一緒に作品作りをともにする中で、専門的な知識が時として邪魔になり、先入観で見えてしまっていることもあるということを知ることができました。

私たちの活動は、好きなことをやってみたい、実現したいと思っていることから始まるものこそが、福祉の原点だと考えます。そのために、一緒に学び、成長できる場所をこれからも作っていきたいと考えています。

2022.2.2 に、学ぶ場、集う場、みんなの居場所として、上富田町の彦五郎公園横にあるお店『ヒコゴロン』にて『icor(イコ)』というスペースを始めます。毎週水曜日の14時~17時、パソコンやデザイン、自分のやりたいことをする場所としてオープンします。作業所の帰りや学校の帰りにでも寄ってもらえるような場所になればと考えています。学んだことやできた作品を『ヒコゴロン』の店舗でも販売できるようにする予定です。

ぼくの仕事 めっちゃ売れる
ぼくは次から次へと作品を作る
ぼく コロナウィルスでも、怯まず絵描きを続ける
ぼくの仕事 世界中に飛ぶように売れる
ぼくの仕事 世界中で大ヒット
ぼくの仕事 天才的
ぼくの仕事 人気急上昇中
ぼくの仕事 ワンダフル
ぼくの仕事 素晴らしい発想
ぼくの仕事 天使の発想
ぼくの仕事 まだまだ売れる
ぼくの仕事 幸せな作品
ぼくの仕事 幸せの世界へレディーゴー！
ぼくの仕事 見てるだけで幸せ
ぼくの仕事 鉄壁の神





スペシャルオリンピックス日本・和歌山 (SON・和歌山)

事業所紹介

SON・和歌山は、知的障害のあるアスリートにスポーツプログラムを提供し、アスリートの健康を増進し、勇気をふるい、喜びを感じ、家族や地域の人々と才能や技能そして友情を分かちあうことができるよう(スペシャルオリンピックスの使命)、日常的なスポーツトレーニングや定期的な競技会を実施し、ナショナルゲーム(全国大会)にアスリートを派遣するとともに、SOの活動を広く知っていただくための広報活動など、様々な取り組みを行っています。

SON・和歌山は、2006年より活動を開始し、現在、陸上、ボウリング、競泳、サッカー、柔道、フロアホッケー、アルペンスキー、スノーシューイングの 8 プログラムを実施しています。

活動風景



事業所データ

■事務局

〒649-6423

和歌山県紀の川市尾崎 79-1

麦の郷 紀の川生活支援センター内

■TEL 080-1433-4402

■Email wakayama@son.or.jp

■URL <https://sonwaka.jimdo.com/>



SON・和歌山



SO 日本

利用者の声

- ・マイペースで楽しく頑張る！
- ・コーチのアドバイスを聞いてバタフライ頑張る！
- ・仲間と一緒にチャレンジできた
- ・表彰式で金メダルをもらって嬉しかった
- ・目標に向けて楽しみながら頑張ります
- ・宿泊合宿ができるようになった
- ・ナショナルゲーム(全国大会)で友達ができたよ

スペシャルオリンピックス（SO）は、知的障害のある人たちに様々なスポーツ活動とその成果の発表の場である競技会を年間を通じて継続的に提供している国際的なスポーツ組織です。

スポーツに親しむ方々は多くいらっしゃいます。しかし、障害ゆえにその機会を保障されていないという現実があります。特に競技としてのスポーツでは、勝利至上主義の名の下で排除や敬遠される場面もありました。本来スポーツは誰にでも活動の場が保障され、楽しく取り組むことができるものです。やらされるのではなく、自発的に努力を積み重ね、競技会という発表の場で持てる力を発揮することができれば、更なる喜びとなり生涯スポーツへとつながってまいります。障害があってもそれは同じ事です。SO日本の理事長である有森裕子は「チャンスをもたらえないことが、どれだけ不幸なことか」と話しています。障害の有無に関係なく、頑張れるチャンスの場を提供する事で、個々の力を高め、それが社会参加へとつながり、社会人・地域人・家庭人として存在感を持ち、充実した人生を過ごせるようになるのではないのでしょうか。それは、アスリート（SOでは障害のある競技者をこう呼んでいます）だけでなく、ボランティアやファミリーが参加し、お互いがより理解を深めることで、共に生きる社会づくりへとつながっていくと思います。まさにSO活動はお互いが支え合い高め合う人間活動そのものだと思っています。

2021年はコロナ禍で思うように活動ができず、そのような中でもオンラインを活用して活動ができないものか模索をしました。「ピンチをチャンスに」もSO活動のあり方のひとつです。

そのような中、SO日本主催の「アスリートストーリー発表会2021」が開催され全国から選考されたアスリート10名による発表がありました。和歌山からもMさん（和歌山のアスリートの代表であるアスリート委員長をしています）が申込み、最終選考まで残り選ばれました。発表の様子はYouTubeを通じて全国に配信されましたが、その中から抜粋で紹介させていただきます。

<Mさんの発表より>

主に柔道と陸上、アルペンスキーに参加しています。支援学校中学部3年生からで活動歴9年になります。SOに入って、アスリート委員長という役割があることを知りました。アスリート代表でとてもかっこよく、いつかは僕もなりたいなあ…とあこがれていました。8年目の2020年に指名されとても嬉しかったです。2020年の冬季ナショナルゲーム・北海道は、たくさんの壮行会を開いてもらい、トヨタカローラさん主催の壮行会ではTVにも写りました。しかし、コロナで大会数日前に突然中止になり、大変なことになりました。それからみんなにも会えず何もせず、とても辛かったです。役員やコーチの皆さんが感染予防対策や距離をとって少しずつ始められるように考えてくれました。これは運営委員の一人としてリモートですが運営委員会の会議に出席できているので知ることができました。安心して活動できるのはとても幸せだと思います。

また、オリ・パラの様に誰もがSOと言えばスペシャルオリンピックスと分ってもらえる様、僕もできる事をお手伝いして行けたらと思います。

最終選考に選ばれてとても素晴らしい舞台に立つことができました。YouTubeに生配信され、たくさんの方に見ていただきました。とても嬉しかったです。できない経験ができて、これからもたくさんしたい目標ができました。将来はワールドゲームへも出たいと思います。

※2022年に夏季ナショナルゲーム・広島 2023年に夏季ワールドゲーム・ベルリンが開催されます

Mさんの話からは、やらされているのではなくアスリートが主体者として活動すること、ゆっくりじっくり時間をかけながら活動すること、小さくても活動をやり続けていくこと、あこがれる人間像を作ること、やりたいことを見つけること、自分一人ではなく助けを借りながら夢に向かって進んでいくこと、周りの人々との関係を考えながら取り組むこと等々の大切さをアスリートの生の声から学ぶ機会となりました。コーチとアスリートの目線をあわせながら、彼らの持つ可能性をどんどん伸ばしていけるような、また生涯学習の一端を担うような組織として今後も活動していきたいと思っています。

社会福祉法人つわぶき会 T—LABO・

T—JOB（自立訓練【生活訓練】／就労移行支援）

事業所紹介

平成27年1月より「自立訓練」、「就労移行支援」の2種類の福祉サービスで T—JOB がスタート。自立訓練では、主に「所属感」を養う支援を実施し、自己理解を深め集団の中で自分の役割や存在感を十分感じながら活動に取り組める力の充実、それらの充実から新たな欲求を見出しながら、生活の幅を広げていくことに力を入れています。就労移行では「働く」ことは本人の生活の一部ととらえながら、「働き続ける」ために必要な、「ストレス対処法」、「相談する力」、「遊ぶ」、「生活・健康」などの充実を目的としたプログラムを実施しながら、企業等の実習を通じて、自分らしく「働き続ける」ための思いの実現を支援しています。また就職後のアフターフォローにも力をいれています。T—LABO では、カフェとレンタルスペースの事業を行っており、利用者さんにとって「地域交流の場」、接客やイベント企画・運営を通じて「働く練習する場」としての役割があります。

活動風景

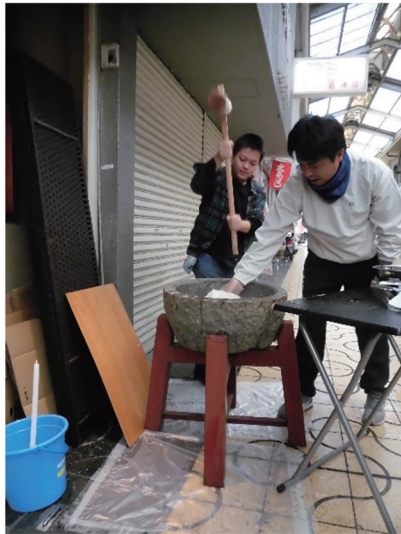


事業所データ

- 〒640—8331
和歌山市美園町5丁目4—2（みその商店街内）
- TEL：073—488—6661
- FAX：073—488—5050
- Email:tjob@tuwabuki.jp
- URL：http://www.tuwabuki.jp/

利用者の声

- ・自分の強みに気づけた。
- ・相談できるようになった。
- ・「なかま」がふえた。
- ・たのしい。
- ・自分の将来について考えるようになった。
- ・考え方の幅が広がった。



青年学級すばらしき仲間たち

事業所紹介

1976年6月19日、青年学級「すばらしき仲間たち」は誕生しました。産みの親は、当時の中学生9人の子どもたちと担任の前川尚子先生でした。子どもたちの進路は、普通高校、支援学校高等部、職業訓練校、企業就職へと出発、この時の子どもたちの願いが、「ぼくらバラバラになりたくない」、「もっと学びたい」、「もっと仲間と語りたい、助け合いたい」でした。その願いが多くの子供をもつ方に引き継がれ44年が経ち、当時の子どもたちは今年で還暦を迎え初老となります。青年学級は、地域で生きる仲間たちにとって学びの場であり、集う場であり、自分らしさを確認し合える場です。そして、仲間たちが常に主体的に参加ができ、悩みもうれしさも共感し合え、心と体がリフレッシュでき、自然体でいられる場です。

活動風景



事業所データ

例会には、月に1~2回、土曜日の夕方、仲間20名から30名の仲間たちが集まります。障害の種類も程度も多種多様で車イス利用の仲間の方もいます。

活動の内容

- ・フリーのディスコタイム、話し合い
- ・ペットボトルのボーリングゲーム
- ・歌の練習、習字や小物づくりの創作
- ・地域イベントでのステージ発表 など

連絡先：和歌山市美園町5丁目5-3

☎073-427-3221（つれもて 鈴木まで）

利用者の声

♪あの日 僕らは願った たくさん仲間がほしい わからないこと くるしいこと 聞いてほしい 教えてほしい うなずいて 励ましあいたい

仕事が終わって駆けつける 仲間の笑顔にほっとする 笑いあえる 話ができる 明日に向かってここで輝ける 仲間が待っていてくれる みんなに会えるから好き みんなと話してる時が好き だから明日も頑張れるんだ 好きな人に会えるから いろんな人に会えるから♪

すばらしき仲間たちテーマソングより



2019 年 7 月
夏祭りでの
ステージ発表

2019 年 12 月
忘年会にて



2019 年 11 月と 2020 年 2 月

マカロニアートに挑戦！



新型コロナウイルス感染の広がりを受けて丸 2 年思うような活動ができていません。
例会をするのがやっとです。

なかまからは、「コロナが落ち着いてほしい。夏祭り・文化祭で歌の発表をしたい。 な
かまと一緒にもっともっと楽しい体験をしたい！」と声があります。

ワーカーズクラブ

事業所紹介

紀南障害者就業・生活支援センター登録を行い、一般就労している又は再就職しようとしている方たちが、自助グループとして活動している任意団体になります。

この会では、定期的に月1回会議を行っています。年間行事として、7月BBQ、10月一泊旅行、12月忘年会、年2回研修会を計画しております。毎週1日夜間の時間帯であります19時30～21時に5～10月ソフトボール（雨天時体育館）、11～4月体育館にてフットサルやバスケットボールで汗を流し、日頃のストレス発散と肥満防止を目的に活動しています。ソフトボールは、3年ほど前から、県外のチームと試合をしたりしています。今はコロナで中止になっていますが。

活動風景



事業所データ

◇〒646-0061

和歌山県田辺市上の山2丁目23-52

◇TEL/0739-26-8830

FAX/0739-26-8840

◇開所状況

時間/8:30～17:30

休日/(土)(日)(祝)

8/12～8/16、12/28～1/3

利用者の声

☆一般就労できた

☆運動が楽しい

☆試合で勝てた

☆しんどいこともあるけど、楽しいこともある

☆仲間が増えた

☆家族にご飯をごちそうした

☆イベントが早くできるようになってほしい



BBQ



スポーツ



旅行



忘年会



～支えがあれば、働ける～

研修会



本人活動支援 フレンズ

事業所紹介

2006年12月、本人活動支援「フレンズ」がスタートしました。それまで、作業所から一般就労を果たしたなかまの中には、職場と家との往復の毎日で、友達が出来ず、一人ぼっちになっている人たちが多くいました。仕事を続けるには「楽しみ」が必要です。そこで就職者が集まり、仕事での悩みを相談したり、休日の楽しみを作るため、集まろうと声をかけました。一番初めの集まりは「忘年会」でした。その後、毎月の会議(おしゃべりの場、近況報告)から、「やってみたいけど一人ではできないことをみんなでやる」をスローガンに調理実習、カラオケ、ボウリング、みかん狩り、陶芸、キャンプ、旅行(大阪、京都、神戸、名古屋、香川、東京)など思いつくあらゆることを体験してきました。「一度体験したことを次は自分たちでやる!」と、同じ所へ友達とでかけたりした人もいます。活動の中で就労者だけでなく、これから就労を目指す人も一緒に活動するようになりました。また、自分たちの活動を広めたいと、障害者就職フォーラムで体験談を発表したり、地域の福祉バザーでの売り上げを東日本大震災などの災害時に寄付するなどの活動を行ってきました。

この活動は「田辺市自発的活動支援事業」の委託を受けています。

活動風景



事業所データ

社会福祉法人ふたば福社会 法人事務局

■〒646-0023

和歌山県田辺市文里 1-15-13

■電話:0739-25-5667

■FAX:0739-25-5510

■Mail:chq51170@par.odn.ne.jp

■URL:<http://www1.odn.ne.jp/~chq51170/>

■Facebook

■Instagram



利用者の声

- ・僕にとって「癒しの場」。
- ・友達ができた。
- ・いろんなところへ行けるようになった。
- ・東京へまた行けると思っていなかった。
- ・ボウリングはみんなでするほうが楽しい。
- ・就職したい気持ちが強くなった。
- ・自分たちの活動をもっと知ってほしい。

本人活動フレンズ 活動の記録



春はお花見、いちご狩り、山登り、ボウリング、カラオケによく行きました。一番の人気はボウリングです！



夏はキャンプ！川遊びをしたあとのバーベキューは最高です。夜はお酒も入って語り合い、みんな寝不足になっていました。



年末恒例の忘年会。みんなで鍋を囲みワイワイ言いながら過ごすと思ったら時間が過ぎていきます。来年の目標やフレンズでやってみたいことを語りあいます。この場で出た意見を次の年に実現していきます。



一番の楽しみは一泊旅行。いろんなところへ行きました。近畿はもちろん、四国や名古屋にも。東京ではみんなで登ったスカイツリーからの景色は忘れられません。早くコロナが終息し、フレンズの活動を再開できることを願っています。

社会福祉法人一麦会（麦の郷）

ゆめ・やりたいこと実現センター

事業所紹介

2018 年に文部科学省「障害者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究」の事業を受託し、同年 8 月に『ゆめ・やりたいこと実現センター』がスタートしました。また、今年度より「地域連携による障害者の生涯学習機会の拡大促進」の事業を受託し、紀の川市との連携を一層強化しながら『学びあう、そして創り合う』ことを大切に活動しています。

活動では、仲間たちと安心して過ごせる場『夕刻のたまり場』や、「こんなことをしたい」という願いや希望をもとに企画実施する『やりたいこと講座』を参加者や講師、ボランティアスタッフ等がともに取り組んでいます。

障害のある人が地域で健康で独立した生活を行い、自身の人生を文化的でより豊かに幸せにするための「生きる力・活かす力」を地域資源を活用しながら協働で養い育むことを目指しています。

活動風景



事業所データ

■〒649-6531

和歌山県紀の川市粉河 853-3

■Tel / Fax 0736-60-8233

■Email

yumeyaritaikoto.center@gmail.com

■URL <http://yume-yaritaikoto.jp.org>

■時間(曜日) 9:00~17:15 (月~金)



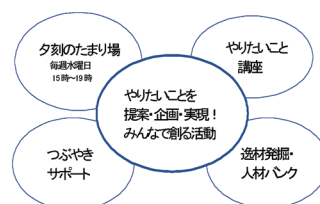
ゆめやり QR



取説

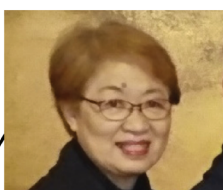


ゆめやり動画



利用者の声

- ・得意なことが増えた。
- ・みんなでお喋りが楽しい。
- ・居場所がもう一つ増えた。
- ・友達がいっぱい増えた。
- ・みんなで悩みを共有できる。
- ・色々な物を講座で作るのが楽しい。



『ゆめ・やり』があつてよかった

『夕刻のたまり場』利用者の母
松下喜美代

息子の隆志は当事者として連携協議会の一員となり 3 年半ほどになります。連携協議会の会議に発足時から休まずに参加。毎週水曜の夕刻のたまり場には、興味のある講座に参加して、そうでないときは一人でゲームセンターや買い物に行くと、自分なりに選択していました。

そんな中、仕事上で辛い体験をすることがあつて 4 か月間、仕事に行けなくなっていました。しかし、たまり場で自分のつらい気持ちや考えを藤本さんや仲間に聞いてもらうことで心情的に落ち着き、言葉にすることで本人なりに考えを整理できたようです。同じような体験をした人もいてたまり場で過ごす時間がとても心休まり、また楽しい時間になったようで毎週心待ちにして参加するようになりました。

「共感しながら寄り添う」関係が 3 年半ほどの活動の中でスタッフや利用者の中で育まれたことに、この事業の意義を実感しました。母親としても、たまり場が生活リズムを整える貴重な場になり、しっかり隆志に寄り添ってくれる人がいることで心が落ち着きました。通所事業所の所長やスタッフの真摯で心のこもったサポートとともに、藤本さんや関わってくださった方からの「たかしは自分の気持ちや状況をしっかり話せるようになり、成長したね。あせらんでいいよ。」と言ってもらいとても有難かったです。

「しんどないか?」「ぼちぼちやで」「仕事に行けるようになって良かったなあ」と声を掛けてくれる人や仲間がいて、一緒に過ごせるたまり場という空間があつて、3 年半共に過ごして、これからも共有する時間が続く、「ゆめ・やり取扱説明書」にある「さんま (三つの間)」の通りだと思います。仲間と空間と時間。障害当事者や家族にとってこれからも続きますように。



ゆめ・やりの一員になったぞ！

名倉くみ子

障害のある人と書道をさせていただくこと 6 年。ゆめ・やりたいこと実現センターの書道講座に関わること 3 年半。センターの皆さんと作品作りをすればする程、楽しく気持ちよく完成できるのはなんだろうと思っています。

昨年、和歌山県障害者文化祭の書道の担当をさせていただき、広範囲の事業所や学校の皆さんと出前講座で作品制作をしてみて確信しました。この人たちは、自分の心に偽りなく、書く、描く。これなんだと。すばらしいですね。

この 3 年半で、私はゆめ・やりたいこと実現センターの一員になった気分です。これからの私の第 2 の人生を、私の老いをメンバーに認めてもらいながら癒してもらえたら。





印象「感じ」

講座・夕刻のたまり場参加者
三木将矢

突然ですが、僕の趣味は絵画鑑賞です。と言っても最近まで全くと言っていいほど絵に興味はありませんでしたし、これと言った趣味もありませんでした。

そんな僕だったのですがゆめ・やりたいこと実現センターの連続講座で、芸術に触れる体験をしました。学校の美術の成績でも下から数えた方が早いぐらいだった僕は暇つぶしぐらいの感覚で芸術体験の連続講座に参加することにしました。

最初は芸術創作に興味が無かったのですが、一緒に参加したメンバーたちと自分の作った作品を見せ合ったり、教えてくれる先生が褒めてくれたりするのが楽しくなって終わるころにはもっと作りたい、もっと芸術に触れていたいという気持ちになっていました。

連続講座が終わった時、なぜ僕は今まで美術や芸術に興味関心が無かったのかとふと思いました。僕は今まで歴史とか物語とかのストーリー性があるものが好きで興味がわいたのですが、絵や彫刻などのその場面を切り取ったものを理解することが難しかったのです。そんな僕に今回の連続講座での創作体験が教えてくれたのは言葉では言い表せない「いい感じ」と言う物だったと思います。

そして僕は休みの日にその「いい感じ」を体験するために美術館に絵画を観に行くことが趣味になりました。今ではレンブラントの深い黒の表現に「いい感じ」を感じたり、モネの苦悩が折り重なったような睡蓮にも「いい感じ」を感じることが出来ます。

連続講座で芸術体験をさせてくれた彫刻家の先生が最後に仰っていた言葉を紹介してこの文を締めくくります。またこういった体験ができることを楽しみにしています。

「偶然積み重ねのその一瞬を切り取ったものが芸術になる」



「学び合うそして創り合うコンファレンス」まとめ

和歌山大学教授 山崎 由可里さん

和歌山大学の山崎と申します。大変貴重な報告をありがとうございました。和歌山県下のみなさんの交流になり、リモートでいろいろな立場の方(行政・事業所・当事者)が全国から参加され、知っていただくことができ交流できたことに意味があったと思います。

和歌山大学に勤め21年になります。大学院生の時に、たまたま「みんなのねがい」という雑誌の特集で、すばらしき仲間たちの座談会を見かけました。名古屋では、市が主催している講座には補助金が出ていて当たり前だと思っていましたが、和歌山は自主的に(補助金はなく)行っていました。和歌山市の青年学級すばらしき仲間たちは前川先生(元伏虎中学校特殊学級担任)と卒業した生徒さんたちが「もっと学びたい」ということで1970年代末に活動を始められたという記事を見て、和歌山大学に就職したいと思いました。

すばらしき仲間たちを作った当時、前川先生たちは教育委員会に「青年学級の援助してほしい」と働き掛けをしましたが、相手にされず悔しい思いをされたそうです。そのため、手弁当で活動をはじめ、とても苦勞されたと聞きました。最初は少数だったのが、30～40名に増えていったようです。もし前川先生がご健在で、文部科学省がこの事業を始めたと知ったら、涙を流して喜ぶのではないかと思います。

現在、小さな願いがどんどん広がり、ゆめ・やりたいこと実現センターと紀の川市と一緒に協力して行っていること、行政と一緒に活動をしていることは他県では普通かもしれませんが、素晴らしいです。

まず、14団体の報告を聞き、和歌山での特色は、学びの場は、福祉の場での活動が多いと感じました。福祉の場が働く場であり、自己実現、リクリエーションの場でもあったのです。和歌山でも古くから福祉の場で生涯学習がされていたことを感じます。一方で、田辺や新宮でも青年学級のような活動が行われていますが、学校から発信していて、支援学校の先生が退職後も、卒業した生徒との関わりを持っていて、手作りで作っています。ゆめ・やりたいこと実現センターもたくさんの方が参加されていますが、青年学級にもニーズがあります。行政とタイアップしながら、していくことも大切ではないかと改めて考えさせられました。社会教育法のなかでは、生涯学習は、学校教育と社会教育も併せて、生涯に渡る学びを保障するもの。行政の環境整備、自主的な地域での学びを支えるというところを和歌山県で行っていく事が必要ではないかと思います。福祉でのつながりは多いものの、障害のある人の生涯学習は、まだまだ当事者側から発信していかななくてはいけない状況ではないかと感じます。

そして、どの活動にも共通していたのは、「ほっとする場」「素の自分でいられる」「楽しみ・生きがい」「あそこに行ったらみんなに会える」「話を聞いてもらえる居場所になっている」「自己実現」「自分のやりたいことを見つけていく」そんな活動を深めていくと、どの人もフラットな関係でいられていま

す。この場でも、当事者の人から発言をしてもらえたら、声をあげていただけたらもっとよかったのではないのでしょうか。

もともと、当時の松野文科大臣が、障害者権利条約の批准を受け「特別支援教育の生涯学習化」を進めていくことになりましたが、松野さんの挨拶のなかで、「重度の当事者の保護者から、学校を卒業したら、学校みたいな場が終わる、友達との交流の場がなくなると不安がられていた思いを重く受け止めた」と語られています。これが、文部科学省に障害者学習支援推進室ができたきっかけになりました。「特別支援教育の生涯学習化」とは何でしょうか。私は、1) 卒業した後、学校という場を離れても、職場や地域に自己実現をできる場所が継続した学びの場がある。2) 生涯学習という観点から、学校教育を見直す。の2点を考えなくてはいけないのではないかと思います。このコンファレンスのグループワークでは、シャイン、フォレスクールからの発表で、自立訓練事業、生活介護事業を活用したプログラムにおいて、自己理解、コミュニケーションスキルを学ぶことを重視していること、人間力を培う活動をしていると報告がありました。今、大半の知的障害のある人は、18歳で学校という場での学びの場が終わってしまっていますが、もし延長されて20～22歳まで学校での学びが続くと、学校教育の見直しが図られることになります。卒業後、学びの作業所が全国に増えています。学びのニーズがある。大学生も4年間の学生生活の間に精神的な育ちがある。障害のある人も、青年期の大事な時期に学校という場で学びを保障されることが必要ではないのでしょうか。現実には、自立訓練事業等の福祉の場が学びの場になっている。障害のある人にとって高等部卒業以降の進学という選択肢がほとんど無い学校教育自体をもっと見直さなければならないのではないかと考えます。障害のある人の進学する環境を整えなくてはいけないのではないのでしょうか。生涯教育はもともと学校教育と社会教育の両方に関わる場所なので、文科省のほうも、なにかチェンジが必要なのではないかと思います。

また、学びの場に参加したいけど移動が困難な人や、一人では参加できない人もいます。関東には、訪問教育のNPO団体があります。今は遠隔でネットを通して結びつきができるようになりました。障害の重い人も軽い人も意思表示ができる人もできない人も、どの人にも学びの権利はあるのです。このことをふまえ、多様な形態での学びの場・居場所づくりを創造していくことが求められると思います。

全国のモデル事業での経験や教訓を生かしていけば、もっと道が開けていくのではないのでしょうか。学びを届けるような訪問教育や家庭を結びつける取組が一つの方策だと思いました。

北海道から沖縄までの参加する人がいて、とても勇気をもらいました。関心の高さや全国で同じ気持ちを持つ人がたくさんいることがわかりました。充実した時間を過ごすことができました。ありがとうございました。

文部科学省「地域連携による障害者の生涯学習機会の拡大促進」

社会福祉法人一麦会 麦の郷 ゆめ・やりたいこと実現センター

〒649-6513 和歌山県紀の川市粉河 853-3

TEL/FAX 0736-60-8233

Mail yumeyaritaikoto.center@gmail.com

<http://yume-yaritaikoto.jpn.org/>

発行：2022 年 3 月

印刷：麦の郷印刷



